

ここは東京、大阪、京都のような都会ではありません、徳島県鳴門市の高島だ。まだ来ない前に、すでに後輩達にここは田舎ですと聞いた。私は家と似ているだろうと思って、まさか家より田舎で、台湾の離島に似たようなところでした。日本語が下手で授業に出るのが大変で、みんなが何を言っているのかよくわかりません。普段私はご飯を炊かないのですが、学校の近くは選択性が非常に少ないので、自分で炊かなければなりませんから。やるには車がないなら足がない、スーパーに買い物に行くにはまず、島を出るしかない。遠すぎます。そこで私のチューターに感謝しています。これは私の人生に特別な体験です。

鳴門に来た最初の一周間は本当に慣れていなかったし、風邪を引いて体調を悪くしていたので、一時は航空券を買って台湾に帰りたいと思っていた。鳴門に来て初めての休みは、自分が電車を乗って、徳島市内に行きました。何も発見しない、そしてバスに乗って神戸へ遊びに行きました。

神戸で海に近いの関係で、外国人と取引の往来が盛んで外国人が多い。自宅、領事館、特色街並みもあります。多い華人が神戸の南京町に移民し、ここは長崎の中华街、横浜中华街一緒に日本三大中华街に名乗ります、多くの中华料理が和食の味に改良したので、日本の中华料理を食べ慣れない。

後輩達の推薦で、書写授業を選んでた、すると一年の書道硬筆字を書いた、幼い頃、かつて書いた書道が身に耐えられないですが、大人になって書いたところに書いた感じがないと比較して日本の書道を発見した処、台湾の書と違うのは、日本書るときは、ペンをもらわない多くの漢字の画数も台湾とは違う。今学期の最後の授業で先生はうちわを作ることを教えてくれました。自分でうちわを描いたり、デザインしたりして、うちわの由来を話してくれました。

音楽科の授業は室内楽を選んで、フルート、オーボエの学生と一緒に協力して、先生はいくつかの中国語を知っています。私は、すでに4年間楽器を吹いていない、また楽器を取って練習し始めて、期末に私達は1回のコンサートを開いて公演の成果とします。

鳴門に来て私はご飯を焼き始めた、以前に、台湾では飯を炊くのは一度もない全部は外食、ここで不便で高島の外に出なくちゃ、だから自分が料理の勉強を始め、ちょっと面白いと思った、10ヵ月間大幅進歩しました

台北市立大学、鳴門教育大学から交換生になる機会を頂き、10ヶ月の間に多くの収穫があったことを感謝します。